

第 102 回 計測技術委員会議事録

日 時 平成 16 年 4 月 23 日(金) 14:00～16:00

場 所 日本電気計器検定所 4階 第2会議室

出席者 委員長 関根(防衛大)

委 員 伊澤(菊水電子)、稲垣(横河電機)、内田(電通大)、大木(日電検)、
大谷(アンリツ)、作田(日本大)、信太(佐賀大)、田辺(電中研)、
中島(三菱電機)

幹 事 作本(日電検)

幹事補佐 白井(日電検)

議 事

1. 優秀論文発表賞授与式

- ・平成 15 年優秀論文発表賞の授与式が行われ、関根委員長より河村氏(電通大)並びに後藤氏(防衛大)に賞状とメダルが授与された。

2. 議事録の確認。

- ・異義なく承認された。

3. 運営委員会報告(3月3日開催分)

白井幹事補佐(関根委員長代理出席)より以下の報告があった。

イ. 調査専門委員会の解散(2件)および新設(8件)が承認された。

[解散]

- ・環境対応電気電子材料・システム調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・次世代高性能磁石と応用調査専門委員会 (マグネティックス技術委員会)

[新設]

- ・液体中の放電現象に関する極限計測技術調査専門委員会 (放電技術委員会)
- ・真空中における放電制御のための高度計測・シミュレーション技術調査専門委員会 (放電技術委員会)
- ・球状トカマク調査専門委員会 (プラズマ技術委員会)
- ・環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会 (誘電・絶縁技術委員会)
- ・機器診断の経済性評価調査専門委員会 (誘電・絶縁技術委員会)
- ・ナノ構造制御有機薄膜及び複合膜の機能化とデバイス応用調査専門委員会 (誘電・絶縁技術委員会)

- ・高性能永久磁石とその応用調査専門委員会 (マグネティックス技術委員会)
 - ・周波数・時刻の高精度計測応用技術調査専門委員会 (計測技術委員会)
- 計測技術委員会から提出した設置趣意書は、一部修正を行うことで承認された。

ロ. 関係諸会議報告

- ・研究会参加費の無料化は今後も継続する。研究会資料の当日販売価格は値上げとなり、会員・非会員の差別化が実施される。
- ・技術報告の販売部数が 400 部を見込めない場合は、別の報告書にするように運営委員会が指導する。
- ・「技術者教育認定制度検討委員会」を改組し、「技術者教育委員会」を設立する。

ハ. 優秀論文発表賞について

- ・優秀論文発表賞の受賞者が各技術委員会からの推薦のとおり決定した。今年度は表彰方法は従来とおりとするが、来年度からは部門大会で表彰を行う。

3. 平成 16 年度活動計画並びに計測研究会開催予定

作本幹事より、平成 16 年度活動計画並びに計測研究会開催予定について説明があった。

- ・A 部門大会は 8 月 30 日～31 日に仙台国際センターで開催される。また、東京支部連合研究会は 9 月 9 日～10 日に東京電機大学で開催されるが、計測研究会は午後半日を希望している。
- ・10 月に技術委員会を、11 月に「光応用計測」のテーマで計測研究会を予定する。研究会の開催場所はアンリツを予定し、見学会も併せて行いたい。
- ・佐賀大学での研究会は 10 月 7 日～8 日とするが、申込みの締切を電気学会に確認する。
- ・6 月末に開催される CPEM 報告を兼ねた計測研究会は、別途考慮したい。
- ・6 月の「電磁波計測」の研究会は、21 日に電力中央研究所で開催する。この研究会を含め、平成 16 年の発表件数は 20 件である。

4. 調査専門委員会設置趣意書

作田委員より、「周波数・時刻の高精度計測応用技術調査専門委員会」の設置趣意書について説明があった。

- ・運営委員会から要求があり、調査期間の所に「2 年間」の文言を追加した。

5. 活動資金

作本幹事より活動資金について報告があった。

- ・平成 15 年度の研究会活動補助金の報告を行った。なお、平成 16 年度の補助金は 5 万円である。
- ・A 部門の活動資金の中間報告を行った。平成 16 年度の活動資金は 50,000 円で、内訳はホームページの更新代として 5,000 円×10 回である。関根委員長に総論を、信太先生に計測の歴史を執筆していただき、計測研究会プログラムなどを掲載する。

6. 東京支部連合研究会

作本幹事より東京支部連合研究会について報告があった。

- ・東京支部に、「遠隔計測(リモートセンシング)」のテーマで申し込んだ。10 日午後の開催を希望した。

7. 論文編集委員会

作田委員より論文編集委員会からの報告があった。

- ・各部門の部門誌を統合して一つの英文誌を発行する構想も検討されている。
- ・論文数を増やすために特集号を企画する方法があるが、査読者の決定などに時間を要するため、発行の 16 ヶ月前に提案する必要がある。
- ・現在、レーダ信号処理技術を中心に、「計測における信号処理技術」のテーマで特集記事を考えている。
- ・解説記事を投稿して欲しい。過去に関根委員長(平成 16 年 1 月)、浦塚委員(平成 15 年 6 月)の記事が掲載されている。また、学会情報の記事として、CPEM などの国際会議の報告を行って欲しい。

次回予定

日 時 平成 16 年 7 月 30 日(金)

場 所 未 定